

夜夢 18話

さすらいみちお



杜虎堂出版

前書き

お断り

原文を尊重して、少しおかしいところがあるのは、承知しているが、直さないほうがより不思議な世界をそのまま体験していただけたらと思います、あえて、直さなかった。

明確なる誤字脱字は、直したところもあるが、文法がおかしな日本語になっているところはあえて直さなかった。忘れないうちに、起きてすぐ書いたことによる障害である。

基本的に句読点の位置も変えていない。

など、いろいろと原文を尊重したが、当方の都合により、表記の流儀は、MS-IME 2012 に任せた。漢字かな交じり文の感覚が変わるだけで、内容は全く変わらないし、寝ぼけ眼で書いたものは、私の本意ではないので、これだけは、あえて、原文のままにできなかった。

また、本文と絵や写真が全く関係ないものになってしまっていることをお許しください。これはこれで、幻想の世界の表現と考えていただけたらとありがたい。

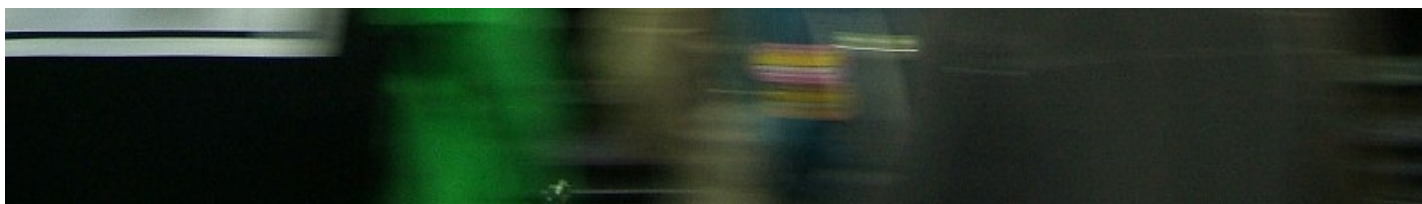


95年

5/12

私は高校の制服（学生服）を着ていたようだった。駅 15：10 発の電車が出た。間に合わなかったと惜しく思う。次は、16：15分だと思ったら、誰かが、15：30にあると言っている。？20だったかもしれない。時刻表見ると確かにあった。どうも〇〇号とあり、普通ではないらしかった。急いで切符を買おうと思った。2人は、先に改札を通り、ホームへその時、どこまで、切符を買うのかを聞いている。彼らは、振り向きもせずに「東彼杵」という。確認のため、復唱したようだった。彼らは、投げやりに「東彼杵」と答えた。自販機へそこでも、本当にそんな列車があるのか確認した。あった。さっきは、のぼりと下りを見間違えたんだと思う。200円だった。が、とてつもなく多くの1円だの100円だのあらゆる種類のcoinが出てきて、それには、stampまで交じていた。台紙に貼って集めるやつだと思ったが、時間に間に合わないような気がして、慌ててそのcoinらを財布に入れようとしている。stampが邪魔だと思ったので、半分ぐらいタバコの灰皿に捨てる。捨てる時に、2度「やぐらしい」という。右隣の自販機にいた女性これも高校生のようだった（1人ではなかったよう2人いるように思われた）が、くすくす笑っている。急いで、改札を入った。その時トイレに行きたくなる。改札のを入ってすぐ右手がトイレ。水洗ではなく、小使用は、えらく深く1mから1.5mぐらい掘ってあった。しかし、しにくかったので、（〇〇を出しにくいと思ったから）個室（大用）に入って、ズボンを全部おろして、やろうと思った。個室の仕切り壁がとても低いように思われた。隠れられない（にくい）と感じた。感じとしては、約1.2から1.3mぐらい）。時間がとても気になった。時間を確認するために、時計を観たかったが、見れない。なぜなら、同時に、早く用を足したかったからである。間に合わない。間に合わない。早く用を足したい。～と思いながら、目が覚めた。[完]





この一本前の夢

何やら地図を見ている。（東京だったかもしれない）都心は、この程度道路もいっぱいあって、入り組んでいるが、このくらいまで離れると、だいぶ、すくなと思う。何枚か地図をめくりながら、見比べている。

5/14

中園、桑野、古藤ちゃんの高校入学式の段、

story としては、全体を覚えていない。

○3人に対して、大学入試まであと3年あるから、今なら間に合うと私は言っている。

○中園君に世界史を5取ってもらいたいという。



5/17 1

太陽の光の中で、－「一つを得れば一つを失うと思いなさい」 みきおちゃんとY氏の合体概念人間

前にいた部屋のほうが、よくテレビが入るのでビデオの画質が良いと彼に言った。妙な機械があった。電気ショックを与えるものだろうと思った。「よく働くようにするためのものだろうと思った。」

自分では、夜だと思っていた。時間にして、11時半ぐらいと思っていた。少し早いが、ではといって、帰ろうと思ったら、その男は、髪ぼさぼさで鼻髭の生えた4から5cmの毛糸に思われたが、そして、女性の人形と思ったに変身していた。実に大きな頭と大きな体 目や鼻に当たる物はないと思われた。それが、私が帰る時に、頭を半分ぐらいドアからはみ出して、横になっていたので、ドアを閉めると挟むなと思いつつ、帰った。実際私は、そのドアを閉めたかどうかは不明、そして、その彼の住まいが、2階であり、下に、降りる階段が見えた。しかも、自分が夜と思っていたら、それは、昼の11時であることが、判明した。

2 瑞枝氏を美術館と図書館が合体したようなところに案内している。手前は、基本的に図書館のようで、奥にもう一部屋あるのが、見えた。そこに行ってみると、こちらは、基本的に美術室で、いろいろ展示してあった。5:45分ごろと思われたが、みんないなくなって、帰りかけていたので、ミズ氏がもう閉まるって、急いで、出口に行こうとしたが、私は、6:00までは、大丈夫といって、落ち着いて、出口に向かう。そして、ちょうどもう少しのタイミングで、バスに乗り遅れる。かなり次まで、時間があるようだったが、待とうという。



5/18

電話を探すが使用中だったり、out of order だったり結局見つけ出せずに、焦っている。



5/24

私は、小学生のようだった。朝学校に行ってみると、雨だったので、修学旅行は中止だろうと思った。多くの人がそう思ったようだ。近くの人は急いで取りに帰った。それでも、20から30人が、修学旅行に行け（か）なかった。

次の朝、テレビでその修学旅行のニュース（旅館での夜の様子）をやっていた。

「僕は、上記の理由により、行かなかった」という。そして、父に「お金が返ってくると思うので、全部やる」という。父は、喜ぶ。姉は、忙しいのだからと言って急いでいるが、朝、家族がそろっているのはいいことだと私、思う。

2

高校生のようだ。学校で、150番以内でしかも、世界史は100点以外ありえないと思う。



6/14

私は、次の授業のために体操服を探していた。自分の机の中も回りもすべて探したがなかった。机の中には、なぜか多量の海パンが入っており、中にはスケパンとTパンが交じっていた。誰かが、Tパンを取り出して、誰んだという。心当たりはあったが、知らないふりをする。次の授業の人たち、で教室はいっぱいになっていた。先生も来ていた。早くしなければと思っているときに、もうすでに自分が体操服を着ていながらいないと探していたことに気づいた。しかし、短パンの下から、黒パンツが出てきている。

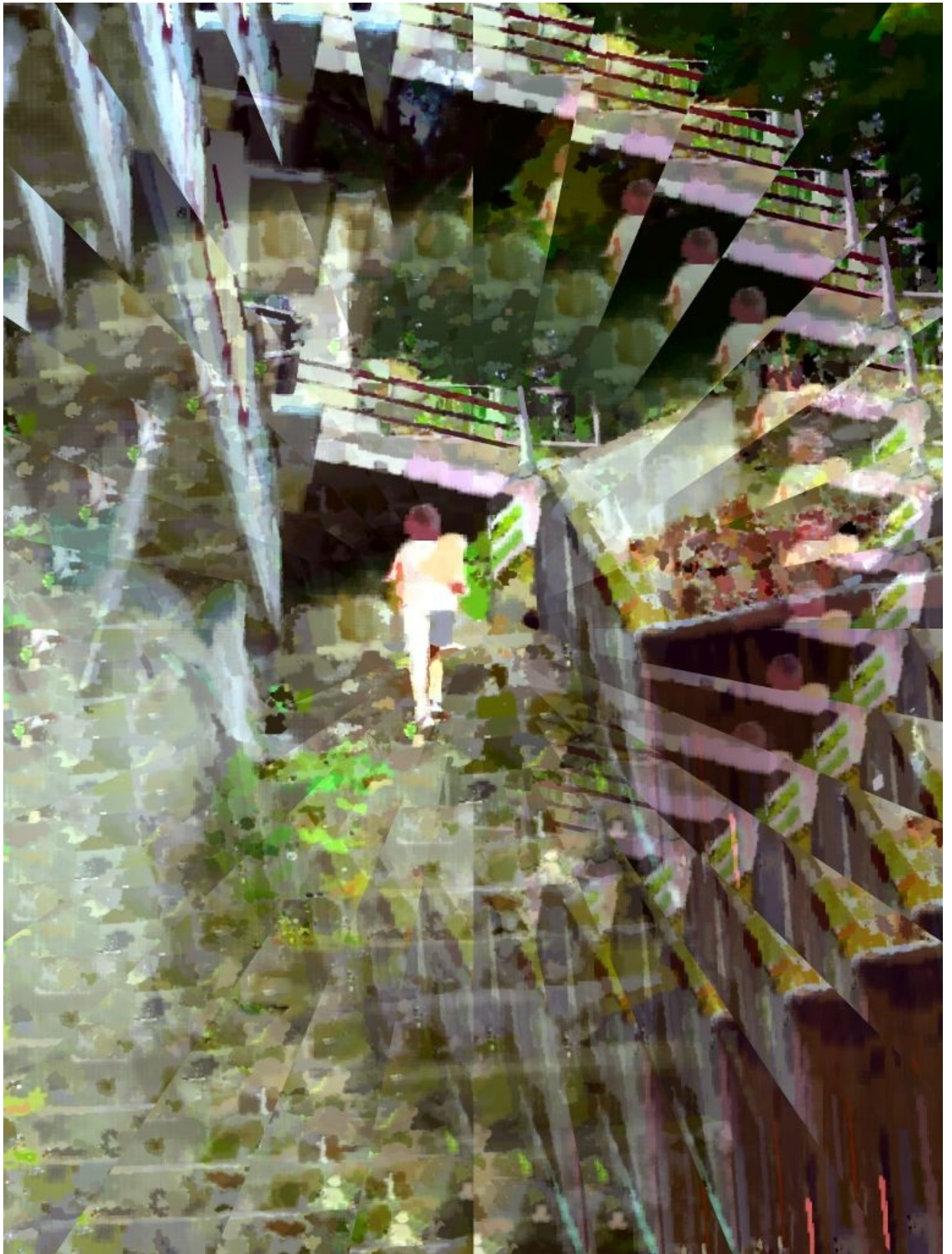
今度は、帽子がない。誰かが、本棚の一番上にある。新品の帽子がいくつもあるのを教えてくれる。それを一つ取って、急いで外に行こうとしているところで、終わった。



96/1/4

守屋という女 塾、シスターが送る。今日は、彼女と塾だから、いけない。

彼女はビッケのように見えた。後ろ姿で、いたく足が細かったので、

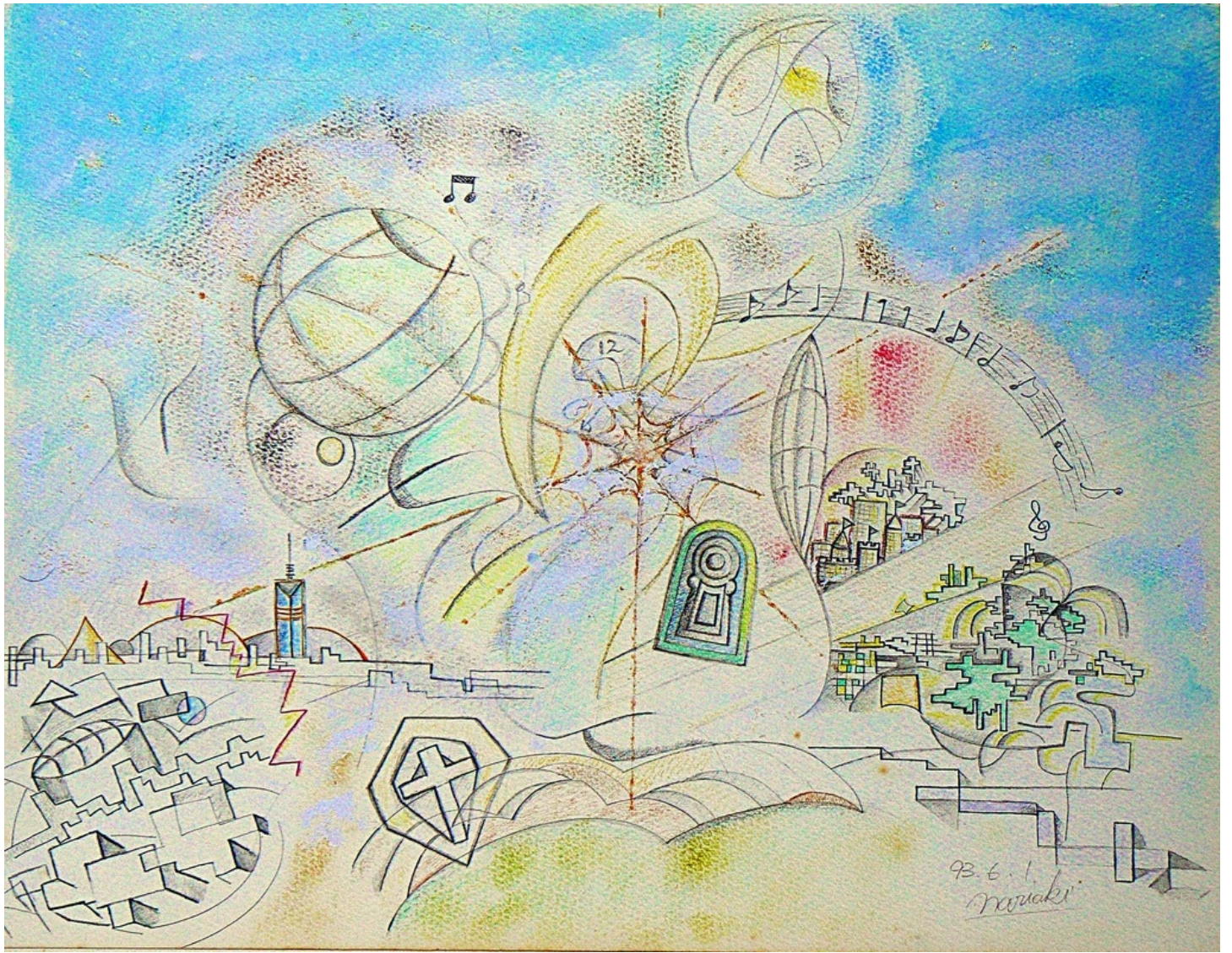


1/10

9：30までに教室に行かなければならない。9：30を少し過ぎてしまった。夏休みぐらい休ませろと思っている。

飛鳥は遠いと思っている。自転車で行くので、ズボンのすそをひもで縛っているがうまくいかないので、母に結んでもらう。

自転車のバックにヘビの少し嫌だったが、いっぱい詰まった袋を詰める。香椎校の校長は早く出ていく。ヘビの用意と（選別）袋詰めは、中学生3人ぐらい（女性）が行った。ヘビは、大方死んではいたが、生きているのもいたようだった。（生きている奴もほとんど動かなかったが）



96/1/12

大阪の人が女友達（はっきり言葉がそれと分かったので）、一人と話をしながら、歩いている。私は、彼女の大きな紙袋を持ってやる。



1/13

ノートがめちゃくちゃになっているので、あとで整理するのだと女教師に言っている。

まだ、学校は、終わっているのではなかったようであるが、もうすでに5から6人帰っていたので、私も帰ることにしたが、靴が見当たらないので、下にそのまま置いてきたのだらうと思って、階段を下ったが靴はなかった。そこで、自分のカバンにあった上履きをはいて、帰ることにした。実際はいてみたが、ちょっとカッコ悪いなと思ったところで目が覚めた。



1/14

池永君は今日お休みかなと思う。先はとがっていたかもしれない（刃こぼれ）包丁を紙で包もうとするがうまくいかず、豚島にさせる。二段ベットの上に登ろうとしていた。次を探すのが、面倒だから、やっと慣れたことでもあるので、このままSPをやめないでおこうかなと思う。義理子がいたら考える。



1/15

写真家のおじさんの家についていこうと思ってついていったら、黒人の2人が交通事故一人はひどい怪我。もうひとり
軽傷。救急車、救急車思っているうちに、写真家のおじさんは、30mから50mほど先を行っていた。そこは上り坂で、
彼は、その上の方にいた。写真家のおじさん。ある女の人 全く写らなかったことが有るかと聞く。ないと答える。

ある女の人が、（電話）連絡があったので来たと写真屋に言っている。写真屋は、全く写っていなかったと言う。帰って
いるその人に、私は、フィルムがちゃんと入っていなかったか。or フィルムを入れるときに光が入ったからだと言う。
しかし、全部写っていないのは、おかしいとしきりに言う。



1/17

Wが、同じ教室にいる夢。「兄が、中国に2年間留学しているので、行けば会える」という。本人が、ここに来ているのに、何を言っているんだと私は思う。そして、えらく上手な日本語をしゃべるな—と思った。Wは、隣の女の子に写真を見せている。私が覗いてみると、私と、Wと彼女の家族が写っていた。少し恥ずかしかったが、しばらくして、見たら、2人の姿は、無く、その席は空になっていた。はじめから、空だったのかなと思えてきた。幻だったのかもしれないと思った。



97/8/7

※順序が正確に再現できなかった。

共通一次 学校での予行テストのようである。時間が足りないと思っている。世界史をやっているがよくわからない。問題のやるところはどこか必死で探している。ひどく焦っている。何度もページをめくっている。他の人はもう終わって帰るようである。自分ではまだ時間は有るだろうと思っている。みんな帰ろうとしている。起立礼をしている。

前の席の女性（ハラサトミ）にあなたも同じ答えなら、9割方はあっているだろうと言う。

前の席は、コモリカヨコだった。後ろに倒して、顔を私の机の上にもたげたが、コモリカヨコであると思った。



8/15

たまや近くの横断歩道

A Bは、中学生ぐらいと見られた 私は、今の年ぐらいで、私は、Bに「また会いましたね、ここに来れば、会えると思った」という。私は、Aが好きだが、Bと話をしている。

また私「千円しか持っていない」という。B子バカにしたように笑う。私は、8kgもあるワークロをおもそうに抱えている。まだ信号は、赤のようだったが、渡って、たまやに入る。B子もかわいいじゃないかと思う。

A子は、明確には見えず、たぶん白陰、

B子は、はっきりした顔立ち、色はやや黒かった陽。



夢のまた夢

夢のまた夢

ここに18話の夢（寝ているときに見た）を掲載しましたが、奇妙な話ばかりです。それに合うような絵や写真をといましたが、これまでの作品のストックから、幻想的などのテーマの絵を選択して、紹介しました。絵や写真と本文の内容には全く関連性はありませんが、絵は絵、写真は写真、本文は本文で独立したものとして、見ていただけると、ありがたいです。

私は、上等なカメラを使用しません。普通のコンデジです。コンデジは、画質が劣るとか申される方がおられましたので、反抗して、改造写真の邪道に進みました。すべて、独学独習です。

絵は、左手でしか描きません。基本的には右利きですが、絵とお箸は、左手でないとうまくいきませんので、そうしています。成人してから、そうになりました。左の手を使う傾向が高くなってから、自然に手が、絵を描くようになりました。止めないで、好きにやらせていたら、そのような絵を自動で描くようになりました。だから、私には、学がありません。全部、自分勝手の独学独習です。

ウソの世界を想像して、創造していく覚悟とともに、この作品を世に送ります。

すべては、1981/7/28 に始まります。

天に告ぐ、「私はもうさまよった絵は描いてはおりません。もうすでにコンデジの覇者です」では、これを見てくださった方に、全幅のお礼をいたします。もう命の電池も残りわずかになりかけていますが、学もありませんが、しかし、「何のために」の答えとして、神に借りを返し続けるでしょう。

2019/01/07
哲人隠士杜虎道士

最後に一言、私は「もりとらどうし」ではない。「とこどうし」とお呼びください。

夜夢 18話

<http://p.booklog.jp/book/125201>

発行所：杜虎堂出版

著者：さすらいみちお（杜虎道士）

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokochan3/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/125201>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト